



浜家連ニュース

第173号

平成27(2015)年1月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

巻頭言

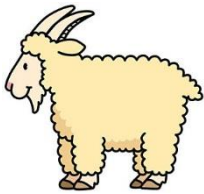
「隠さない」生き方

副理事長 柏木 彰

～当人の回復や社会復帰の手助けをするためにも、
まずは家族が障害を正しく理解しましょう！～



昨年9月に開かれたBブロック市民精神保健福祉フォーラムで講師の藤井克徳氏(日本障害者協議会代表)は講演の終りに家族の皆さんに持ち続けてほしい5つのポイントとして①隠さない、②決めつけない、③悔やまない、④健康を損ねない、⑤孤独にならない、頭文字をとって**カキクケコ**だと説かれました。



娘が統合失調症を患ってから小生も精神障害者の家族としてもう20年以上になるが、その間を振り返ってみるとようやく「隠さない」生き方が出来るようになったのはごく最近のことだ。長い間親戚の法事に娘と一緒に出るのに抵抗があった。電話が鳴って娘が受話器を取ろうとすると直ぐ替わろうとしたり古い仲間の集まりで順番に回ってくる近況報告でも「日頃は精神障害者家族会で活動しています。」とはどうしても言えなかった。

それがいつの間にか親戚や友人にも抵抗なく「私の娘は精神障害者なので家族会に参加して活動している」と言えるようになった。爾来、それまで何となく胸につかえていたものがとれて気持ちが軽くなり、明るく過ごせるようになった。不思議な事にそれとともに娘の精神状態も目に見えて安定してきたと言える。

子どもの回復には「先ず親が変わることだ」「子どもの障害を受容することだ」とよく言われているが、親がどう変わればいいのか、「受容」とは具体的にどういふことかと言われると答えるのはなかなか難しい。「隠さない」生き方が出来るようになって娘の精神症状が明らかに軽くなってきたことを実感するとき、「親が変わるとは」、「受容」とは、具体的には「隠さない」生き方が出来るようになることではないかと考えるようになった。

人々の間に精神障害者は「何をするか分からない」「危険だ」という「偏見」が今なお根強く残っているわが国では、家族が隠さざるを得ない辛い状況に置かれていることは間違いないが、障害者と家族自身が勇気をもって外に向かって「偏見」を正していく姿勢を持たない限りいつまでたってもこの辛い状況は変わらない。

そのためにも先ず「隠さない」生き方を心がけたい。

事務局追記

パソコンをお持ちの方は、「横浜市中区の広報12月号」を検索してご覧ください。柏木が寄稿しています。

浜家連の動き === 署名を集めています。 ===

我が国は26年1月に国連で採択された障害者権利条約に批准しました。障害者権利条約は「全ての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並

びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進する」(第1条)という目的を掲げています。その目的が国、および地方自治体の障害者施策において具体化されることを多くの障害者・家族、関係者が期待と関心を寄

せています。

とりわけ、障害者権利条約の第25条では「締約国は、障害のある人が障害に基づく差別なしに到達可能な最高水準の健康を享受する権利を有することを認め」、「障害のある人が特にその障害のために必要とする保健サービスを提供すること」と規定しています。



ところが、神奈川県は2008年10月から重度障害者医療費助成事業に一部負担金の徴収、および年齢制限などを導入し、市町村への補助金を削減しました。

これを受け県下市町村は、県費の削減分を独自の財源で補填し、一部負担金の徴収は実施していないものの、65歳の年齢制限は18市町村まで導入され

ています。これは、年齢によって制度が受けられなくなる問題と同時に、64歳まで軽度障害だった方が65歳を過ぎて重度化した場合も対象者から外されるといふ、理不尽な制度変更です。

また、2013年度より精神障害者1級の通院費助成が実施されたものの、精神障害者のおよそ大半を占めている2級の方への通入院費助成が6市町村しか実施されていない状況です。

これらは障害者権利条約の内容から大きく乖離していると言わざるを得ません。

*事務局追記

批准した障害者権利条約に沿って重度障害者・子どもの医療費助成制度の改善が図られるよう、署名を集めていますので、ご協力をお願いします。締め切りは1月31日です。事務局までご提出ください。

26年度第5回浜家連研修会の報告

平成26年11月28日(金)浜家連研修会第5回目があり、26年度最終回でした。参加者は80名でした。テーマは「引きこもりや医療に繋がらない人へのアウトリーチ」で、講師は横浜市青少年相談センター長内田太郎氏でした。今回は若い方のアンケートの自由記述をもって、報告に代えさせていただきます。

*アンケート自由記述

アンケート回収数 57枚(回収率 71.4%)

【～30歳】

・「訪問」といっても、すぐに可能なわけではなく、多くの事前準備が必要であると学びました。本人の支援だけではなく、家族の支援も、引きこもりの問題について重要であると感じました。

【30歳代】

- ・ひきこもり支援についての研修など少ない中で、支援者として参加させてもらって良かった。今回は家族向けのようで、支援者が行って来たことを聴けたので、とても勉強になった。
- ・青少年相談センターの役割や機能、またアウトリーチの困難さをうかがえて良かったです。



- ・とても参考になりました。またの開催を期待します。
- ・訪問をしていくにあたり、きちんと準備していく必要があると思いました。特に、情報もなしに訪問をしていくと、家族だけではなく、本人への不信も招くことになると思いました。
- ・本人と家族が同じテーブルにつくまでに、家族と支援者間のコミュニケーション、家族支援の重要さがわかった。
- ・質疑応答時間が活発で面白かった。家族は切羽詰まって話せる場所を求めているのかと思った。
- ・今回は非精神的なアウトリーチが主だったが、精神的ひきこもりのアウトリーチを主体にした研修会も聞いてみたい。

Aブロックフォーラムについて

「長引くひきこもりと精神疾患」 講師 斎藤 環 先生 副理事長 北川はるみ

平成26年12月1日(月)青葉公会堂で、フォーラムが開催されました。この日は雨模様の寒い日でしたが、会場には多くのお客様がお見えになり、600人の定員の内、557名の参加がありました。

主催は青葉区高齢・障害支援課、浜家連Aブロック家族会(あおば会、すずらん会、白梅会、みどり会) NPO法人月一の会で行いました。

講演では、青年期のひきこもりは3群に分けられる。

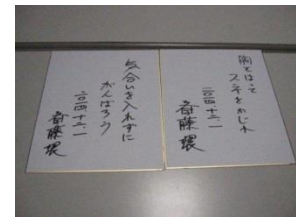
第1群は統合失調症、気分障害、不安障害などを主診断とする

第2群は広汎性発達障害や精神遅滞などの発達障害を主診断とする

第3群はパーソナリティ障害や身体表現性障害

ということですが、斎藤先生は、「3分の1づつの割合と言われているが、発達障害は1割程度だと認識している。しかし診断したからには、医師は最後まで患者に対して、責任を持つべきだ。」といわれたのが印象に残りました。発達障害診断の問題としては、医療現場では見過ごされがち、医療以外の現場では過剰診断の傾向。しかし本人の自己洞察が深まり、生きやすさが増すようであれば診断の意味があるそうです。家族会でも発達障害？があり2次障害として精神障害になった人が意外と多いように思われますが。家族の心構えとしては、本人が安心してひきこまれる関係づくり(信頼関係の構築)会話がすべて(SST)はひきこもりがあろうと、なかろうと、当事者への対応は共通していると思います。又、家庭内暴力への対処としては、家庭を密室化させない、①第三者の介入②司法(警察通報)の介入③避難だそうです。実際に活動もされているからでしょうか、明快なお話でした。

色紙 左「気合を入れずにがんばろう」右「胸をはってスネをかじれ」です。



斎藤先生色紙

単会便り(のぞみ)横浜市鶴見区精神障害者生活支援センターからの報告

＝ 福祉サービスに関するアンケートを実施しました。＝

＜鶴見区における精神保健福祉サービスに関するアンケート結果報告及び考察＞

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター 精神保健福祉士 村山 哲史

今回、家族会のぞみ会員の皆様をお願いしたアンケート(回収数27名)は、鶴見区という街を障害があっても、誰もが安心して住みやすい街にするための第一歩となることを目的として実施させて頂きました。その為には、福祉に関するサービスをどのくらいご存知なのか、何を求められているのか知る必要があると考えました。そこで、まずはご家族の皆様にご協力頂いた次第であります。

アンケートの結果についてですが、回答頂いたほとんどのご家族が70代前半～後半であり、ご家族自身も高齢となり先々を心配されながら経済的にはもちろんのこと、生活全般でもお子様を支えていることがわかりました。また、主な

相談先が通院・入院先の病院であり、なかなか相談しにくい状況(電話などかけづらい等)がわかりました。そして、福祉サービスをどのくらいご存知ですか?という質問については、大半の方が“聞いたことはあるけど利用したことはない”という回答でした。これは、正確な情報を支援する側が伝えきれていないこと、利用するまでの手続き等が複雑になっているからなのではと考えました。

この結果を受けて、具体的に情報を提供する機会を増やすこと、訪問・同行(アウトリーチ支援)により手続きをご本人と一緒にやる支援の強化が必要であると思いました。また、自由記載のコメントも“訪問看護について知りたい”

“何かあった際に、すぐに相談できるようにして欲しい”“制度について詳しく知りたい”“就労支援して欲しい”等、ご家族の切なる想いをたくさん伝えていただきました。これを踏まえて当センターで実施する事業の参考にさせて頂き、形にしていきたいと思えます。

今回は、アンケート第一弾としてご家族の皆様にご協力頂きましたが、アンケート内容をさら

に考え、病気のご本人様、地域の方々にも実施させて頂き、具体的な制度（施設も含めて）の増設に尽力していきたいと考えております。

アンケート結果は、福祉の専門家として厳しい現実を知る機会になったと同時に、具体的に今後取り組む必要があることを考える貴重な機会にもなりました。ご協力頂いた のぞみの 皆様、本当にありがとうございました。

イベントのお知らせ

§ 1 Dブロックフォーラムについて

日時 平成27年1月24日(土) 午後1時～午後4時(開場午後0時30分)

会場 金沢公会堂 (京急 金沢文庫駅・金沢八景駅下車 徒歩12分)

定員 400人(事前申し込み不要 直接会場へお越しください)

内容 1部 コーラス(女声合唱団) アンサンブル・メリー・マリー

2部 「事例にみるうつ病と統合失調症の回復～その理解とケア」～

講師 白石 弘巳先生

(東洋大学ライフデザイン学部教授、東京都医学総合研究所客員教授)



ぼたんちゃん

本の紹介

① あなたに褒められなくて 高倉 健 著 集英社発行

先ごろ亡くなった、映画俳優の高倉健のエッセイ集です。映画の画面では見れない本音を書いてあります。お母さんを想う気持ちには涙が出ます。

② 奥右筆秘帳 1巻～12巻 上田 秀人 著 講談社発行

徳川将軍家斉の孤独(トップに立つ人の悲哀)、それを取り巻く権力を持つ人たちの横暴、それに立ち向かう奥右筆の活躍です。その中に今は浜家連の顧問になられた、米倉家の先祖の事が書かれています。

米倉さんは世が世であればお殿様だったのかもしれませんが。とにかく面白かったです。

1巻から12巻までありますが、読み始めたらやめられません。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。お正月はいかがお過ごしでしょうか。12月に大雪が降ったり昨年は自然災害が多かったように思います。今年はどうな年になるのでしょうか。穏やかに過ぎればいいと思うのは私だけではないかもしれません。「1年の計は元旦にあり」といいます。目標をもってそれに向かって進んでいければと思います。今年もよろしくお祈りします。

個人的なことですが、26年は通勤時間を利用して時代小説の文庫本を約200冊くらいを読みました。その中でお勧めは上記2冊です。両方ともお正月の休みにテレビに飽きたら一度読んでみてください。

(事務局 斉藤)